

琵琶湖を取り巻く人の暮らしと生物多様性

日時：2010年11月23日（火・祝） 13:30～16:45

場所：滋賀県立大学 交流センター ホール

滋賀県は世界有数の歴史を誇る琵琶湖を有し、そこには固有種をはじめとする様々な生物が生息している。まさに生物多様性の宝庫である。一方で琵琶湖の周りにも森（里山）、川、里（田んぼ）といったもう一つの重要な生態系があり、琵琶湖と一体となって生物多様性を支えている。そうした生態系の多くが人との関わりの中で今日まで維持されてきた。本シンポジウムでは、森・川・里・湖という重要な生態系のつながりとそこに生きる生き物、そして人の暮らしとの関わりに焦点をあてた最新の研究成果を紹介する。それらをふまえて、これからの地域社会で生物多様性を活かす方法を探る。

あいさつ（13:20～13:30）

日本環境動物昆虫学会会長 今村 祐嗣（京都大学）

司会：河瀬直幹（甲賀市 みなくち子どもの森 自然館）

<特別講演>（13:30～14:30）

滋賀の生物多様性と地域文化のかかわり

遊磨 正秀（龍谷大学）

— 休憩 —

<シンポジウム>

<講演>（14:35～15:50）

1. 里山の変化と動物たちの逆襲（仮）（14:35～15:00）

野間 直彦（滋賀県立大学）

2. 田んぼの水生昆虫の多様性（仮）（15:00～15:25）

向井 康夫（京都大学）

3. 琵琶湖岸の暮らしと生物多様性（仮）（15:25～15:50）

牧野 厚史（滋賀県立琵琶湖博物館）

— 休憩 —

<総合討論> 司会：夏原由博（名古屋大学大学院）（16:00～16:45）

パネリスト：講演者、金尾 滋史（多賀町立博物館）、八尋 克郎（琵琶湖博物館）

閉会挨拶 大会実行委員長 沢田裕一（滋賀県立大学）